

〔吉田小学校沿革史〕

やまもとひでお
山本秀雄

学校沿革史について

誰しも小・中学校時代の思い出は懐かしく、忘れられないことが一杯あるのではないか。最近、統合によって消えた学校跡地を、いくつか見て歩いた。主なき校門と並んで立つ『○○校跡之碑』は、如何にも寂しい思いがする。

第二次大戦後、屋久島の小学校は、多くの復員・引揚者や開拓者の子弟教育のために創建された分校も、一時十校近くにのぼった。当時は生活再建に追われて、学校問題も民家改装の校舎を以て出発し、諸事時間を借りて基準に達する対策をたてたものか、通学道路、教室、教材、教師等の環境改善には要求を入れる経済的余裕はなかったようだ。学校沿革史は行間にそれを語っている。

昭和四、五十年代になると教育環境は整備され、スクールバスも通うが、一方過疎が進み、分校は必要性を失い、統合される学校も出る次第。皆様の中にも母校は消えてタイムカプセルの中に思い出を詰めておられる方もあろうか。因に閉校した学校は計八校を数える。

上屋久町は、楠川小学校（独立校Ⅱ昭和48年閉）、志戸子小学校（独立校Ⅱ昭和48年閉）、吉田小学校（独立校Ⅱ昭和48年

閉）、湯向小学校（金岳小学校分校Ⅱ昭和43年閉）、岳小学校（宮浦小学校分校Ⅱ昭和39年閉）、小杉谷小学校（独立校Ⅱ昭和45年閉）。屋久町は、竜天小学校（粟穂小学校分校から昭和34年独立Ⅱ昭和53年閉）、城下小学校（栗生小学校分校Ⅱ昭和47年閉）となっている。

実は今夏、東京に住む友人がひよっこり帰島した。語るに、同窓会というのに母校に顔を出そうにも母校なし、思い出多き校舎や校庭の姿を脳裏に描くのみ……と笑っていたが、母校が消えては淋しかろうと、私は「学校沿革史」を手元に置くことをすすめた。

その沿革史を探して送れ、との下命である。従うことにして取り急ぎ要覧を送り、沿革史を探しているが、これがなかなか困難な作業である。閉校になると沿革資料の行方もたちまち知れなくなる。今は島内の学校沿革史をすべて欲しいと思っている。

なお、資料の判明しているのは以下の各校である。

金岳小学校、永田小学校、吉田小学校、一湊小学校、宮之浦（宮浦）小学校、同・岳分校、小瀬田小学校、粟穂小学校、同・船行分校、同・小杉谷官行斫伐所家庭教育場、粟穂中学校太忠岳分校、神山小学校、八幡小学校、岳南高等学校校、栗生小学校。

昭和三十年十一月

沿革史 抜粋

上屋久村立吉田小学校

創立

明治九年なりと言ひ明治十年なりとも言われるが、明治九年が真相であろう。何故なれば、明治十三年七月、永田小学校の分校たることを県に申請した理由に曰く、「吉田小学は、明治九年、公立小学の名称を立てたるも、戸数僅少、且つ貧村にして公立小学校を実施する目途立て難きを以て、永田小学校の分校として子弟を教育せんと欲す、云々」之に依り、明治九年を創立とする。

発達

創立当時の教育状況は記録なく、職員の仕事及び教育の状況知るに由なく、只僅かに残る口牌や古老に質すに、最初の教員は林慶太郎（本籍不祥）であつた。初め、字下村に掘立茅葺の校舎を造り、之を教場にして生徒十二、三名を收容し、読方、書き方の二科を授けたる模様で、純然たる寺子屋

的教育であつて学校とは有名無実に近かつたのである。

林慶太郎、在職一年有餘、その後任に高丑太郎就任。

生徒数漸く増加し敷地狭隘なるを以て、字上村に地をえらび、六坪位の校舎を設けたが、日を経るに従ひ教場狭隘の故を以て十坪に増築した。生徒数二十名内外と稱し、初めて三、四名の女児も交つていた。

明治十二年十二月二十六日

和田秀平（鹿児島市の人）本郡巡回教師に任じ、教育の発達に意を注ぐ。

明治十三年

当村内を二学区に分つ。

第一学区を 宮之浦、楠川、小瀬田とし、
第二学区を 志戸子、一湊、吉田、永田、

口永良部島とす。

監督奨励の機関、之より具備するに至る。

明治十三年十月十一日

和田秀平、本部巡回教師を退職。

明治十四年（月日不祥）

当校が永田小学校の分校となるや柴田勝秀（元福岡県人、永田の人）雇拜名、当分校詰を命ぜらる。

明治十四年

各学区に学務委員を置く。

郡山誠治、山口英助（共に鹿児島の人）の兩名、第二学区学務委員に任じられ、教育を督励す。

明治十八年一月十日

柴田勝秀、当分校勤務を解かれ、其の後任若松勇藏（元鹿児島、永田の人）授業生として拜命となる。

明治十八年八月六日

本部長の令達に曰く、
学務委員は学区内教育上の主幹にして一日も欠くべからざるものなるに依り、九月二十日限り悉皆設置すべし、云々……

明治十九年三月三日

馭謨郡宮浦外七ヶ村戸長郡山誠治より金久支庁種子島出張所長今泉清へ上申せし部内学事報告は、当時の学事状況を窺うに足るを以て左に其の一斑を録す。

部内学事の状況

教育事務の目的は、専ら教育令の主旨を遵奉し、人情風俗を視察し、世の変遷に従ひ事務の機軸を運らし、之を導き之を教え、常に学事の進行を謀り、諸事の記載を整頓し、時に百般の改良を需むるを以て要領とせり。

当第一、二学区は、漸く世運の進歩に伴ひ多少文化の雨露に沐浴すと雖も、元來其の父兄の愚昧固陋にして未だ旧時の弊風を脱

せず、全く教育の何物たるを知らず、其稍々長ずるに及んで目下の小利に溺る。是れ其の父兄の因て然らしむる所なり。之をして督責奨励するは夫れ戸長の責任なるを以て、専ら勧誘学事の貴重なるを知らしめ、将来の進歩計画中に有之。

学事区割の状況

担当第一、二区共に道路険絶なれども全村皆学校の設けあるを以て、通学児童稍々特に遠路遅刻の遺憾を訴うる者なきも、不就学の割合に多きは一嘆一愕に堪えざるなり。然れども自然文明の何物たるを知るに至らば、島民挙げて振起し子弟の教育を望むに至らん。

学令児童就学、当第一学区に於ては学令男子の就学するもの凡そ百十七名にして、第二学区は凡そ男子百六十八名にして、女子の学に就くもの、両学区共一つもあることなし。抑々女子の就学せざるは、蓋し亦、島風の然らしむる所にして、父兄の不学無知なれば男子の教育すら尚不十分を訴ふ。然るを況んや女子に於てをや。是、風土習俗の如何ともする能はず、之等の弊風は漸次教化の力により一洗せざるべからず。

(以下略之)

明治二十年

従来永田小学校の分校たりしが、独立の簡

易科小学となり、同時に若松授業生退職せり(月日不明)。

若松授業生退職より二十三年央頃迄の間に左記教員の交迭ありしが如きも、記録の存するなきを以て其任免年月日等不祥。

山口栄助(鹿児島の人)

林甚五郎(種子島の人)

田代清中(鹿児島の人)

宮里仲七(鹿児島の人)

佐々木壽太郎(宮之浦の人、元鹿児島)

明治二十三年三月

上屋久村各小学校兼務訓導を宮之浦に置き時々巡視して専ら校内教育の統一上進を謀り、比較奨励試験制度を設けたり。即ち各校より生徒を選抜し、試験を行い、優等者には賞品を授与せり。之に於てか生徒も精励し父兄も亦自覚せしもの如し。此時に兼務訓導に任せられしは始良郡加治木村の人、壹岐休太郎なり。

明治二十三年四月十日

兼務訓導壹岐休太郎臨校し、親しく教授法の講義ありたり。

同年七月

雇郡山誠治依願退職せり。

同年九月十二日

一湊小学雇肥後甚助、当校雇拜命。

同年十月八日

肥後雇退職し、加納武助(鹿児島の人)其の後任として拜命。

同年十月十四日より二十二日迄九日間、加納雇には授業生検定受験の為、下屋久村へ出張、二十四日帰校せり。

明治二十四年三月二十八日

畏くも教育に関する勅語を奉戴、安置し奉る。

同年六月二十五、六日、壹岐兼務訓導には臨校ありて教授法の講義ありたり。其翌日二十七日は修身科の口授法に付き詳細なる注意と、体操科に付き注意すべき要項を説示せられたり。

当時は始業終業時の一定せるなく、又時間割等もなかりし如し。今試みに壹岐兼務訓導批評中の一節を摘記せん。

始業終業時は一定し置かざるべからず。

亦時間割は一日もなかるべからず云々。

明治二十五年二月十日

加納雇退職し、その後任には授業生内田亀吉(種子島の人)拜命就任せり。

明治二十五年三月三十一日

壹岐兼務訓導、南大隅郡大根占小学校に転任し、同年五月二十七日、本部西ノ表小学校訓導兼校長武田信清(種子島の人)その後を襲う。

明治二十五年十一月

新教育令実施と共に従来の簡易科小学を廃し、修業年限二ケ年の尋常小学校に改めらるると同時に、当校は一湊小学の分校となれり。

明治二十七年九月十一日

大風雨の為、校舍破損せしに付き本月中閉校、直ちに修繕に着手す。十月一日開校。

明治二十七年十一月五日

県庁郡役所より吏員学務視察の為、臨校。

明治三十年一月十二日

皇太后陛下御崩御に付き、十六日迄五日間休業。



二月七、八の二日間、御葬儀に付き休業。

明治三十年四月六日

四ケ年修業の第一回卒業生を出す。

明治三十年十月十六日

本村各小学校連合屋久島一周の修学旅行。

十六日、当校出発。十八日、各校教員生徒一同、宮浦校庭に集合。教員十九名、生徒二百三名。二十七日、当校無事帰校。

明治三十一年四月八日

学林地苗床へ、楠杉の採種をなす。

明治三十一年七月二十三日

本県地方視学黒江澄江氏臨視、諸簿冊の検査より教授の批評等ありたり。

明治三十一年十二月二日

上野本郡視学臨視、種々有益なる批評ありたり。

十二月八日、一湊校と連合し永田灯台まで修学旅行をなし、翌九日帰校す。

明治三十二年三月二十五日

学校地の開拓をなす。

当時於ては、従来旧曆節句等の当日又は其前後日等の生徒の欠席は黙許せしにはあらざるか。誌に左の一節あり。

本日は三月の節句の当日なるにも拘わらず生徒の出席多かりしは全く督促の結果なるべし、云々……。

明治三十二年十一月六日

宮浦小学校に於て本村各小学校連合運動会に生徒引率参加し、十日帰校す。

同年十一月三十日

学林地に挿植すべき杉の枝穂の切り採りをなす。

十二月二日、学林地字登立(三反歩)へ杉の樹栽をなす(百本)。

明治三十三年三月二十二日

学林へ杉の樹栽をなす(百八本)。

明治三十三年五月十日

皇太子殿下御慶事を行はせらるるにつき奉賀式を挙行す。

同年六月十六日

初めて裁縫教授を開始す。但し専科教員なく、当分一湊曾山雇毎月二三回出張教授のこと。

同年十一月

一湊校に於て本村各小学校聯合運動会開催。

明治三十四年四月一日

当校は去る二十五年以来一湊小学校の分校たりしが、新教育令実施と共に独立の尋常小学校となれり。今試みに新令の重なる要項を挙げん。

一、義務教育を四ケ年とし一定したること。

二、読方、綴方、書方を併せて国語としたること。

三、尋常小学校に二ヶ年乃至四ヶ年の高等小学校を併置し得ること。

四、一学校の学級数は十二学級を越すべからざること。

五、尋常小学校に於ける算術は筆算を主とし、珠算は四学年に加減を課すること。

同年一月二十七日

職員児童一同学林の下払いをなす。

同年二月一日

学林に杉苗を植栽したり。

同年十一月八日

第一回本村教員研究会、一湊校に於て。

同年十二月十五日

本日より十分間の遊歩を教育的共同遊戯にすることにして時間割を変更し実行せり。

明治三十五年二月十五日

職員生徒一同、学林植付用の杉穂採集をなす。

本月中、校地校舍狹隘を訴え且汚穢甚だしく新築の議起こり、敷地地均しに着手せり。

同年二月二十二日

卒業生を集め、爾後、夜学会を開くことに決す。

同年三月十五日

裁縫専科教員高崎カネ拝命着任。本校専科教員の嚆矢なり。

同年四月九日

本村聯合運動会を永田校に於て開催す。

同年七月二十九日

夏季休暇中、下屋久村に於て上下両村聯合教授法講習会開催。

明治三十六年三月

三宅本県参事官、横山本部長、江藤本部視学、法元本県属、臨視あり。

明治三十七年二月十一日

これ抑も如何なる日ぞ。神武即位の佳節にして国民たるものの祝賀し且つ国家の長久を祈るべき祝日中の一ならずや。しかるに本年中の紀元節は、特に慶賀し覚悟せざるべからず。何故ぞ。征露詔勅の下賜これなり。豈夫れ慶賀せずして可ならんや。覚悟せずして可ならんや。

本村教員研究会の決議により本村に日露戦争映画を購入し、当校は十二月十一日の夜幻灯会を開きしに來観者多く、多大の感動を与えたり。

明治三十八年十一月十七日

日露の戦雲茲に収まり、我が帝国の全捷を以て平和克服し、聖上陛下伊勢大廟へ御参拝、戦捷の御奉告あらせらるる当日なれば業を休みて敬意を表し奉る。

明治三十九年十月十六日——二十三日

屋久島一周の修学旅行。生徒数二百四十五名にして各校の員数は左の如し。

永田校 八十五名 吉田校 八名

一湊校 四十七名 志戸子校 十四名

宮浦校 六十九名 楠川校 十五名

小瀬田校 七名

明治四十年二月十四日

永田校七学童永田川に溺死したる葬儀の日にて、木原校長は児童を二名引率し、一湊校長曾山伝作氏と同道出張して、同校職員及各遺族に弔辞を陳べ会葬せり。

同年十月十六日

本校校舍落成式。

明治四十一年十二月十六日

戊申証書奉戴に付き奉誦式を挙行す。

明治四十二年一月より二月初旬に至るまでに実行したる件、左の如し。

1. 毎日始業前、職員生徒一同校庭に整列して敬礼式を行う。

2. 当校生徒は従來校庭に於いての履物は下駄、草履等、区々にて一定せるなきにより自然不規律不活発の嫌いあるを以て、雨天を除くの外は草履を用いせしむることに定めたり。

3. 社会的知識を得せしむると同時に読書の趣味を養成せんが為に、児童新聞を毎日校庭一定の場所に提出すること。

乃ち新聞雜誌等より材料を撰び、大黑板に板書するものとす。

4. 学校生徒たるの品位を保ち、兼て団体的名誉を重んぜしむる為、児童の名札を門に掲げること。

5. 自治的精神を養成せん一助として毎朝早起し、洗足となりて自家の内外を掃除すること。

6. 訓練の実を挙げ有効ならしめん為、訓練事項を設けたり。

目下計画中に属する件、左の如し。

1. 皇太子殿下御来廳記念学林選定の件。
2. 青年夜学会開設の件。
3. 壮丁教育に関する件。
4. 戊申証書御下賜記念の為、既設学林へ補植の件。

明治四十四年度

六月二十三日

掃除当番生を定む。但し四年以上の男女をして其の日の看護当番に定む。

十一月二十一日

吉田婦人会発会式を挙ぐ。

明治四十五年度（大正元年度）

七月二十八日

天皇御重態に涉らせらるるに付き歌舞音曲一般児童並に父兄に差控ゆべき旨其筋より通牒に接す。

七月二十九日 午後七時

天皇御重病御容態委細、通牒に接す（郡長発）。

同日、尚御重態の悲電に接す。

七月三十日 午後五時 悲電に恐接す。

天皇陛下午前零時四十三分崩御遊ばされたるに付き授業休止せよ 村長。

電文左の如し。

テンノウヘイカコンゴゼン〇ジ四三ブンホ
ウギヨニツキジユギヨウキユウシセヨ ソ
ンテウ

明治四十五年七月三十一日

本日をして大正と改元せり。

天皇陛下御崩御に付き御追悼式を挙ぐ。

三十一日より五日間歌舞音曲を停止し、国旗を掲ぐるものは上部に黒布を付け竿頭を黒布にて包み喪章を付すること。

大正元年九月十二日

明治天皇陛下御葬儀に付き儀式作法訓練。

同年九月十三日 大正天皇陛下、本日青山練

兵場に於て御大葬式御挙行。吾校も当区民一般と共に午後六時頃、当校に於て遙拜式挙行。方法は神官の指揮による。

御大葬につき本日より三日間謹慎休業す。

大正三年

一月十七日 去る十三日、桜島大爆発。本日、

白煙大空を被う。

三月二十三日 教育会活動写真開催。

四月十三日 皇太后陛下御崩御。

五月二十四日 御欽葬にて午後八時校内にて遙拜式を挙ぐ。

十一月十三日 青島陥落祝捷会をなす。

大正四年

二月五日 本校内に青年夜学会開会。日曜を除き毎夜開会することに決定。

二月二十一日 便所及小使室改築工事着手。

二月二十五日 校地内の空地に茶種子蒔付をなす。

三月五日 郡内尋三、尋六、学力考査あり。

十月二日 自動比較考査。

大正五年

一月二十九日 当校御下賜の御真影奉迎の為瀬戸山校長は尋四以上の生徒引率、村役場へ出張、警衛として上原巡查附添へり。

一月三十日 御真影奉戴式を挙ぐ。

十二月十三日 郡内各校児童学力考査施行。

大正六年

三月十二日 校舍修繕完了。

三月十七日 第二号学林地杉苗植付。

三月二十日 第一号学林地杉苗百六十本植付。

十月十八日 両陛下御真影下賜。

十一月十日 隈元郡長、区民青年会員に通俗講演をなす。

大正七年

四月二十七日 トラホーム患者、点眼開始。

十月十四日 御下賜米配布式挙行。

大正八年

七月一日 講和祝賀会挙行の為、休業。

大正九年

十月三十日 勅語渙発三十年記念式挙行。

十一月一日 明治神宮鎮座遙拝式挙行。

大正十一年

十月十九日 村内体育会並に学芸会（四年以上、宮之浦校に於て）。

大正十五年

二月二十八日 歩兵第四十五聯隊屋久島行軍。

出迎の為、一湊へ全校児童引率す。教練及

機関銃見学。

三月一日 本校に四十分休憩、機関銃の説明

実射あり。直ちに永田へ出発。田中校長は

五、六年児童並に補校男女生徒引率して永

田に於ける演習見学。午後四時帰校す。

七月一日 青年訓練所開所式挙行。

十月二十二日 長慶天皇御神告祭に付き臨時

休業。

十二月二十五日 天皇御崩御。昭和と改元。

昭和二年

一月一日 大喪中に付き万事取止めとなる。

二月七日 先帝陛下御大葬遙拝式挙行。

二月八日 御大喪につき休業。

二月十一日 紀元節なるも挙行を止め休業。

十月二十一日 一湊校に於て青年訓練所査閲。

昭和三年

十月十九日 御真影御下賜奉戴式を挙ぐ。

昭和四年

四月十一日 メートル法実施五ヶ年記念日に

付き講話あり。

昭和五年

五月七日 乳幼児愛護に関する講話会あり。

十月三十日 勅語御下賜満四十年記念式を挙

十一月十六日 永田火災被害児童へ寄付金三

百九十四円を送る。

昭和六年

一月二日 天皇陛下御影、村役場へ奉返。

二月五日 両陛下御影奉戴。

四月一日 聯隊区司令官巡視の為、一湊校に

於て青年在郷軍人査閲あり。

十一月三日 紀元節。全国体育デー。

昭和七年

九月十八日 満州上海事変戦没者慰霊祭挙行。

十一月三十日 兵制六十年記念式挙行。

昭和九年

五月二十二日 一湊校に於て健児団査閲（五、

六年参加）

十二月十三日 国防婦人会発会式。一湊校に

於て。幹部出會。

昭和十一年

四月一日より一湊尋常高等小学校の分教場と

なる。

昭和十三年

十月十六日 新築落成式挙行。

昭和十五年

四月八日 区民の數年来の宿望、遂に成り、

吉田尋常小学校と改稱し、独立す。但し二

学級。

十月より三学級となる。
十二月二十七日 ラジオ購入寄付懇請。

昭和十六年

一月二十三日 実行組合總會。

一月二十八日 部落常会発会。

四月二十八日 御真影拝載式。

六月二十八日 少年団結成式。

昭和十七年

八月二十五日 新校舎竣工す。

八月二十六日二十七日 未曾有の台風襲来。

風速五十五米。御影、校舎、無事なり。

昭和十八年度

高等科併置す（四月一日より）。

昭和十九年

九月八日 兎二頭購入飼育。

九月二十七日 池の修理をなす。

十一月十六日 婦人会御下賜の令旨奉読式。

昭和二十年

一月二十日 永田校にて少年団査閲。
昭和二十年度

八月十九日 警備隊、防衛隊、解体さる。

九月八日 在郷軍人会散会さる。

二月二十三日 機雷爆発、窓硝子七十二枚破損。

三月九日 御真影奉還式。区民総出見送る。

昭和二十一年度

四月五日 軍事色払拭査察。

六月二十七日 教員適格審査第一表発送。

九月一日 熊毛再建運動上屋久分会総委員会
(於宮之浦校)。

九月五日 奉安庫二ヶ所撤去。新ラジオ体操教授。

十一月三日 憲法発布記念式。明治節賀式。
記念大運動会。

十一月十三日 鹿兒島地区進駐軍、米軍政官
及グレイク大尉、一湊に視察。

十二月十一日 婦人会蔬菜品評会。学校に於
て行う。

十二月十五日 母親学級開講式。

三月二十二日より四月十二日まで

新学制実施上、授業継続、授業日数に加算。
高等科修了生も同じ。但し本年のみ、応急
措置。

四月十二日 終業式。

昭和二十二年度

五月一日 本年に限り小学校の入学式を行う。

本日より吉田小学校と改称。

昭和二十三年度

六月十七日 P T A協議会。

七月三日 P T A臨時総会。

八月十四日 給食用調理室完了。

三月十五日 上屋久村青年学校解散式。

昭和二十四年度

四月二十六日 一湊高等学校創立(但し屋久
高校の分校)

八月二十四日 学術研究調査団来校。

一月二十日 青年学級を組織し、二十一日授
業開始す。

昭和二十五年

四月八日 法令の改正により本日入学式を挙
行す。

五月七日 サマータム実施す。

二月二十八日 本日より愈々米国寄贈の脱脂
乳の給食を行う。

昭和二十六年

七月十一日 複式教育研究会を本校で行う。

九月十四日 青年学級発表会。

十一月九日 村内体育大会、一湊校に於て挙
行。本校も参加し、優秀な成績を収む。

昭和二十七年

五月十四日 公営住宅工事完了(二軒)。

一月二十六日 一湊中で全校(職員生徒)結

核検診。

昭和二十八年

六月八日 県知事重成格電源開発視察団一行
通過。

六月十六日 地教委の備品検査あり。

十二月十三日 複式教育研究会を本校でもつ。

一月八日 舟溜場の起工式を盛大に行う(本
校で)。

昭和二十九年

八月二十一日 村営丸神丸就航(一湊校で祝
賀会あり)。

二月二十八日 中野学校部分林の植林をなす。
昭和三十年

六月三十日 村教育委員来校、座談会をもつ。

七月二十九日 屋久島地区総合社会教育研究
会(於安房小学校)。区長、P T A会長、
青年団三名、婦人会二名、校長の八名、出
会せり。

八月九日 粟穂小学校にて公聴会あり。

九月二十九日 近來に見ない台風二十二号の
為に校舎大破せり。

十月七日 吉田部落内道路で、バスによる屋
久島最初の交通事故あり。(数え年三歳の
女児即死す)。